道遊の割戸　江戸時代に金銀鉱石を含む山を断ち割った露頭掘り（鉱脈が露出した部分に沿って、鉱脈だけを堀り採る採掘方法）の跡で、佐渡金銀山の象徴。

○「金と銀の島、佐渡 ―鉱山とその文化―」に対する評価

佐渡の金銀山は、石見銀山から導入した採掘・精錬の技術をもとに効率的な金銀生産システムを確立させ、国内外の鉱山開発に多大な影響を与えた鉱山遺跡を中心として、16世紀から20世紀の各段階における金銀生産の機構や鉱山と関連する土地利用の諸要素が残されている資産です。

16世紀に大陸からもたらされ、石見銀山に根付いた「灰吹法」を効率的な金銀生産機構に組み込み、国内各地の鉱山への伝播を通じて日本の鉱山開発を発展させた拠点的鉱山であり、関連する諸要素が良好に遺存することから、世界遺産一覧表にすでに記載されている「石見銀山遺跡とその文化的景観」との組合せにより、顕著な普遍的価値を持つ可能性が高いとされています。

西三川砂金山遺跡
砂金が採掘された虎丸山と笹川集落

鶴子銀山遺跡
鶴子銀山に残る間歩（坑道）跡

喜びのちょうちん行列

9月26日、「金と銀の島、佐渡 ―鉱山とその文化―」の世界遺産暫定一覧表記載を祝って、ちょうちん行列が行なわれました。行列は佐渡金山駐車場をスタートすると、大工町～京町通～羽田町～相川公園を練り歩き、ちょうちんを手にした約200人の参加者は、喜び合っていました。